



大分市の取り組み

大分市では、2013年度に約2687万トンあった温室効果ガスの排出量を2030年度には32.8%減らし、約1806万トンにすることを目標にしています。

この目標を達成するため、地球温暖化対策に係る計画を立て、市民・事業者・行政が力を合わせて取り組んでいます。

市民・事業者・行政が協力して取り組む6つの活動

省エネルギー行動を行う

わたしたちの暮らしや活動を見直し、節電や節水などの省エネに取り組み、効率的にエネルギーを利用します。



省エネ・節電



節電ポスター

エコな交通・物流で暮らしやすいまちづくり

エコカーや、カーシェアリングの利用促進、自転車や徒歩での移動、公共交通機関の利用を促進し、環境にやさしく、暮らしやすいまちづくりを進めます。

公共交通



バス

4Rをすすめ、資源を大切に使う

自分でよく考えてから、ものを買ったり使ったりするようにします。「4R」とは、Refuse(リフューズ・ごみになるものは断る)、Reduce(リデュース・ごみを発生させない)、Reuse(リユース・繰り返し使う)、Recycle(リサイクル・資源として再び利用する)の頭文字です。



生ごみ処理容器

再生可能エネルギーの利用を増やす

温室効果ガスの排出量が少ない、再生可能エネルギー(太陽光、水力、風力など、自然から取り出すことができ、一度利用しても再び使うことができるエネルギー)の利用を増やします。

太陽光発電設備



春日町小学校(太陽光パネル)

森林や緑地を保全し、活用する

森林や街路樹などの緑は、二酸化炭素を吸収するだけでなく、気温や湿度の調整、豪雨時の洪水抑制など、異常気象対策にもつながります。緑を守り、増やし、緑に恵まれたまちづくりを進めます。

森林保全



植樹

環境教育、連携体制を強化する

一人ひとりが地球温暖化への理解を深め、進んで行動することができるよう、環境教育を行います。さらに、市民、事業者、行政などがお互いを知り、協力して取り組める体制づくりを進めます。

環境教育出前授業



小学校

※「第4期大分市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」(令和6年9月策定)

水素エネルギーに注目!

水素エネルギーって何?

水素は空気中に含まれる物質のひとつで、これまではロケットの燃料や工場等で利用されてきましたが、最近ではわたしたちの暮らしに深くかかわるエネルギーとして期待されています。

水素エネルギーの特徴

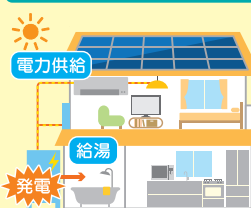
- ① 二酸化炭素を出さないクリーンなエネルギーです。
- ② いろいろなもの(太陽光・風力・水力などの自然エネルギー)から作ることができます。
- ③ エネルギーを水素に変えることで長時間貯めることや持ち運ぶことができます。



大分市では、温室効果ガスの排出を抑制した「脱炭素なくらし」を目指して、使用時に二酸化炭素を排出しない水素エネルギーが活用される「水素社会」の実現に向けた取り組みを進めています。

水素エネルギーを利用している身近なもの

家庭用燃料電池(エネファーム)



燃料電池自動車



ミライ(トヨタ)